

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人山口市文化振興財団	
施 設 名	山口情報芸術センター[YCAM (ワイカム)]	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内 定 額 (総 額)	8,978	(千円)
	公演事業	8,978 (千円)
	人材養成事業	0 (千円)
	普及啓発事業	0 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オンラインパフォーマン ス公演 篠田千明「5X5X5 本足の椅子」	令和2年11月22・23日	演出・出演：篠田千明 出演ダンサー： 福留麻里、ちびがっ つ!、ryohei	目標値	200
		オンライン上		実績値	182※
2	カンパニーデラシネラ 『ドン・キホーテ』	令和2年9月25・26日	出演者：カンパニーデラシネラ 演出：小野寺修二	目標値	200
		山口情報芸術センター		実績値	164※
3	搬入プロジェクト山口	令和2年8月（中止）	新型コロナウイルス感染症拡大にとも ない公演中止。但し、概要紹介のオン ライン・トークイベント+パフォーマ ンスを実施。	目標値	300
		山口情報芸術センター		実績値	—※
4	鎖国 [Walled Garden] プ ロジェクト：ワークショ ップ&トーク 「私はネッ トでできている？」	1回目：令和3年1月30日 +2月6日、2回目：令和3 年1月30日+2月7日	講師／登壇者：カイル・マクドナルド、 スリヤ・マトウ、YCAM InterLab スタッ フ	目標値	80
		オンライン上		実績値	29※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

山口情報芸術センター（以下「YCAM（ワイカム）」）のメディアと芸術の融合をコンセプトとする先端的な芸術表現への取り組みを核とするミッションに沿い、質の高い実演芸術活動に触れる取り組みとして事業展開しました。新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けながらも、事業形体をオンライン実施とするなど工夫をすることにより、当初の企画に沿って人々へ文化芸術を届けるという役割を果たしました。

#### ミッション1「これまでに無い新しい芸術作品をプロデュースし、つくり続ける。」

事業1においてオンラインでの身体表現の可能性の探求する実演コラージュ作品を制作しました。

#### ミッション2「メディア・コミュニケーション技術や最新テクノロジーの社会応用を実験できる施設として存在する。」

事業4において舞台作品を創作するためのワークショップ実施という新しい手法に挑戦しました。

#### ミッション3「活動の成果を市民に質の高い文化芸術経験と教育的な価値として届ける。」

事業4においてITの脆弱性等の様々な「事実」に触れながら議論を行う事が可能なシステムを構築・使用したワークショップを実施し、さらに関係者のトークセッションを二か国語（日・英）で公開しました。

#### ミッション4 山口市の文化振興を図るための企画事業を実施する。

事業2において演劇公演およびポスト・トークを行い、実演舞台芸術の魅力を伝える鑑賞機会を提供しました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

助成を得ることにより下記のような取り組みが可能となりました。

#### 文化的意義

・ 事業2では舞台鑑賞の機会が少ない地方において、地域住民へ舞台作品の魅力を伝える実演公演実施のため、新型コロナウイルス感染症対策として客席を減らし、実施することができました。

#### 社会的意義

・ 事業1ではコロナ禍で劇場に集うことが難しい状況の中、オンラインでも演劇体験としての「ライブ性」を感じられるように、Zoomウェビナーを使用して、ライブで実施しました。  
・ 事業4ではコロナ禍の中、オンライン事業とすることで事業が継続でき、また事業に関わった関係者のトークセッションを二か国語で発信し、いつでも誰もが視聴可能とすることができました。

#### 経済的意義

・ 事業1ではコロナ禍で公演が減る中、地域における鑑賞機会拡大の為、市民は無料としました。  
・ 事業2ではこれからの社会を担う多くの若い世代が演劇に触れることができるよう、25歳以下・高校生以下のチケット価格を安価に設定（25歳以下前売：1500円、前売 高校生以下前売：500円）することができたことにより、若い層の集客（年齢20代以下の観客22%）にもつなげることができました。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### I 目標に対する達成状況

##### 目標1 地域における実演芸術の振興

実演芸術公演鑑賞機会の限られる地方において、また、新型コロナウイルス感染症拡大の為、多くの劇場が公演の実施を延期・中止決定するなかで、事業2においては客席の削減等、最大限の感染予防策を講じて、アーティストとの連携・協同により、会場に観客を入れた状態で実施することができ、地域住民が多彩で質の高い実演芸術に触れる機会となる公演を実施することができました。

##### 目標2 独自の創造性及び企画性が高く、特色ある実演芸術の振興

事業1、4においてはYCAMが擁する設備・専門人材、開館以来17年間蓄積してきたノウハウ・国内外のネットワークを活かして、アーティストとの情報交換やクリエイションにより実現できる、独自性を発揮した実演芸術事業を創出しました。

##### 目標3 地域住民との交流により実演芸術に対する関心を高める

事業2の公演終演後に、新型コロナウイルス感染症拡大予防策を講じた上で、カンパニー主催者であり、演出・主演の方にミニ・トークとして本作について語っていただくと共に、観客からも感想を聞く機会を設け、地域コミュニティにおける身近な劇場・音楽堂として、実演芸術に対する関心と理解の増進に努めました。

##### 目標4 広報活動の充実

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、長期間の休館（令和2年4月13日～5月17日および11月5～17日）や開館時間短縮（5月18日～31日、平日1時間、土日祝3時間短縮）、また、外出制限等を余儀なくされる中、広報活動においても影響を受けましたが、ホームページ・ツイッター・フェイスブック等、コロナ禍のもとでも可能な広報活動を積極的に活用し、認知度の向上を図りました。

#### II 指標に対する達成状況

##### 指標1 満足度 [目標1、2に該当] 目標達成

来場者アンケートを実施し、内容に満足していると回答した参加者の割合80%以上を目指す。  
実績：88%

##### 指標2 新規来場者数 [目標1、2、3に該当] 目標未達

来場者アンケートを実施し、新規で劇場・音楽堂に来場した人数が入場者・参加者の25%以上を目指す。  
実績：22%

##### 指標3 情報発信 [目標4に該当] 目標未達

新聞・放送・雑誌等における掲載件数が1事業あたり15件以上を目指す。  
実績：8件

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【計画（要望書提出時）】

##### 事業期間

事業1：令和2年11月 28日（土）・29日（日）

事業2：令和2年9月 26日（土）・27日（日）

事業3：令和2年8月

事業4：令和3年1月

収支予算：26,532,000円

想定入場者数・参加者数：780人

#### 【実績】

##### 事業期間

事業1：令和2年11月 22日（日）・23日（月・祝）

事業2：令和2年9月 25日（金）・26日（土）

事業3：中止

事業4：1回目-令和3年1月30日および2月6日、2回目-令和3年1月30日および2月7日

収支決算：20,988,599円

総入場者数・参加者数：375人

#### 【計画と実績の乖離理由等】

##### 実施期間

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、事業3は公演の特性から中止と判断をせざるを得ませんでした。が、その他の事業は大きなスケジュールの変更なく実施することができました。

##### 収支決算

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、事業1において要望時に計画していたヨーロッパのカンパニー招聘を断念した事や、事業4において事業に大きく関わるアメリカ人アーティストの来日を断念してオンラインによる事業展開をした事などにより、海外渡航費・宿泊費等が大きく減少した事が起因しています。

##### 入場者数

事業3において館内のパブリックスペースで事業を実施することで、多くの観衆を見込んでいましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に公演中止としたことにより、要望時に見込んでいた300人が0人となった他、事業4をオンライン事業としたことで参加定員を要望時の80人から30人とせざるを得なかった事などが起因しています。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### YCAMの機能

YCAMは市民やさまざまな分野の専門家とともにつくり、ともに学ぶことを活動理念としながら、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性、さらには人間にとっての情報の意味について、幅広いアプローチで探求を行い、そして、その過程で生み出される表現や学びを世界に向けて発信し、次世代を担う人材の育成に寄与することを目指しており、そのために求められる四つの活動に基づき、YCAMの資源を最大限に利用して事業を展開し、その機能を発揮しました。

<求められる活動>

- 市民が文化に触れる機会の創出
- 次代を担うひとづくり
- 新しい芸術文化の創造
- 世界に向けた魅力ある情報の発信

#### 1. YCAMを象徴する存在

メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動しているYCAMの最大の人的資源は内部に設置された研究開発チーム、YCAMインターラボ（InterLab）です。キュレーター、エドューケーター、エンジニア、デザイナーなど、多彩なスキルを持つ20名程の常駐スタッフにより構成され、市民やアーティスト、研究者、外部エンジニア達とともに、コンセプトづくりから作品制作、ワークショップ開発まで、様々な事業を主導しています。多彩な事業展開に加え、開館後17年間蓄積された経験と知識が、令和2年度における新型コロナウイルス感染症拡大に伴うオンライン事業への変更（事業1・4）も可能としました。

#### 2. 創造活動に関わる建物設備等

YCAMは建築家 磯崎新氏の設計による、展示スペース、スタジオ、市立中央図書館を併設する複合文化施設です。スタジオA（事業2実施会場）は演劇公演等を開催できる劇場スタイルのスペースです。ひな壇の客席を地下に収納することでフラットな会場になり、大規模インスタレーション作品展示など、多様なジャンルの作品発表の場としても活用されています。スタジオB（事業1実施会場の一つ）は小規模なライブ・コンサートやワークショップ、展示が可能なフラットなスペースで、天井に昇降式グリッドトラスが設置されているため、暗幕や照明を自由に吊ることができます。さらに、ホワイエ（事業3関連事業実施会場）は館内最大のスペースで、1階から2階へと続く大階段の前に広がる広大な吹き抜けで、館内におけるアクセスのしやすさや左右のガラス越しの中庭から降り注ぐ自然光が生み出す開放感が、人々を引き寄せるフリースペースとなっています。

#### 3. 安全確保のための取組

防災訓練2回実施。1回目はスタジオA（事業2実施会場）（訓練実施日：令和2年6月25日）、2回目はスタジオC（映画上映会場）（訓練実施日：令和3年2月25日）において、お客様役や、実際に会場で働く有償ボランティアも交え、各々公演中・映画上映中の設定で、救護班・通報班等の役割分担をした上で実施しました。様々なシチュエーションで防災訓練を重ねることにより、災害時の初動体制の確認および防災意識の向上を図っています。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、コンサートや演劇公演などの多くの事業について中止や延期の判断を迫られる厳しい社会情勢の中、オンライン形式による事業実施を積極的に取り入れるなど、実施方法に工夫を重ね、コロナ禍においても、YCAMの技術・人材等の資源を投入して市民が文化に触れる機会を最大限、提供できるよう努め、地域の文化芸術の発展に寄与しました。

### 事業1

ポストモダンダンスの旗手として知られるダンサー、アンナ・ハルプリンによる「The Five Legged Stool」（1962年）の舞踊譜から、演劇作家・演出家の篠田千明が立ち上げたライブパフォーマンス作品をオンラインで発信しました。複数の空間で踊る3人のダンサーの映像がコラージュされた、オンラインでの身体表現の可能性を探求する作品となり、来場者アンケートの自由記入欄に「上演芸術の可能性を拓く試みとして興味深かった」といった感想が寄せられました。画面上にはパフォーマンスのもとになっているダンススコアの表示も行い、アンケートで「満足した」と回答した方が98%となりました。

### 事業2

コロナ禍の中、実演団体「カンパニーデラシネラ」による台詞のない作品に改訂された「ドン・キホーテ」を上演。魅力あふれる本作を、デラシネラが、プロダクトデザイナーの石黒猛を美術家として迎え、電動で動き出す不思議な小道具とシンプルなセットによって遊び心と独自の世界観をもった舞台作品へと仕上げました。アンケートの自由記入欄には「パントマイムをベースとした独自演出だけでここまで表現できるとは素晴らしい。」といった感想が寄せられました。終演後に実施したミニ・トークでは、作品が生み出される背景を学び、舞台作品への関心・興味を深める機会としました。高校生以下チケット価格を500円とし、10歳未満～20代の観客を22%とすることができ、今後の実演芸術鑑賞者の裾野を広げる足掛かりともなりました。

### 事業3

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、公演は中止となりました。しかし、公演における搬入空間および搬入物体の1/20の模型を擬似的に搬入するイベントを実施し、制作に協力したコラボレーターにゲストとして多数登場してもらいながら、事業の全容に迫る様子をオンラインで発信しました。

### 事業4

舞台作品を創作するために身近なトピックを抽出しワークショップを行うという新しい創作手法に挑戦しました。フェイクニュースやサイバー攻撃等のITの脆弱性をトピックとし、検索結果が監視・改ざんされるブラウザおよび検索・閲覧履歴を視覚化できるシステムを使い、参加者がインターネットのプライバシーについて見つめ直すと共に、そのデータを使用したアクティビティを行いました。こうした様々な「事実」に触れながら議論をおこなう下地を提供するワークショップを実施し、アンケートでは「満足した」と回答した方が100%と高い評価を得ました。また、その背景となる国内外の事例のトークセッションを行い、特設ウェブサイトにおいて二か国語（日・英）で公開しました。

### 多言語対応

事業紹介ウェブページは英語対応の他、鑑賞において言語の制約が少ない事業は中国語・韓国語のページも作成し、多様な人々への発信を行うことで、認知度の向上に努めました。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業を通じて事業運用能力を高めると共に、組織の持続的発展の為、下記のような取り組みを行っています。

#### 人材面

- ・ 技術者や学芸員の研鑽のため文化庁新進芸術家海外研修制度における約1年間の研修を利用（平成27年度～令和元年の5年間で職員4名参加）する他、職員の知見を広める活動を積極的に推進。
- ・ 海外での作品巡回等を通じた職員の経験値向上。（令和2年度巡回実績：坂本龍一個展「坂本龍一：観音听时 | Ryuichi Sakamoto: seeing sound, hearing time」／北京へのスタッフ派遣1名）

#### 財務面

- ・ 山口市より指定管理者の指定（現在の期間：平成31年4月1日～令和6年3月31日）を受け、指定管理料の他、補助金・助成金の確保に努める共に、入場料・施設利用料等で経営状況は安定。  
（計上収益の推移—平成30年度779,457,831円、令和元年度682,475,545円、令和2年度：676,392,824円）
- ・ 友の会会員数988名（令和3年3月末時点）。特典付入会キャンペーンのチラシによる積極的周知活動実施。

#### 継続的な機能強化の取り組み

「計画・実行・検証・改善」サイクルとして、実施前々年度からの企画提案・協議・調整を経て、事業実施し、終了後はアンケートを集計分析し事業計画の参考とする他、広報チームと共に広報取組の振り返りも実施。

#### 各方面とのネットワークの形成、連携（以下全て令和2年度実績。日付-実施期間。人数-参加者数）

- ・ 環境省の人材育成事業「migakiba(ミガキバ)」（地域循環共生圏創造を担うローカルSDGsリーダー研修企画）において合計5回のインターネット上のセミナー実施。
- ・ 山口県中央連携都市圏域（6市1町）で開催する「山口ゆめ回廊博覧会」の山口市リーディング事業として、地元の史跡（常栄寺雪舟庭）とサテライトスタジオにて作品展示。（10月3日～12月6日、計5,502名）
- ・ 山口県立美術館との連携事業として、地元ゆかりのある中世の画家・雪舟の作品を題材に他者との対話を通じた鑑賞を深めるワークショップ「見えないほうがよくみえる」開催。（11月27・28日、計55名）
- ・ 大学からの講師派遣要請に対する積極的な取り組み。（山口大学、大阪大学、京都芸術大学等）
- ・ 視察・見学。（29団体、149名）
- ・ 日本人インターン。（1名） 博物館実習（オンライン実習）。（2大学、8名）
- ・ 企業連携実施。（嘉穂無線HD／福岡市科学館ブース出展）
- ・ アルスエレクトロニカファスティバルのパートナープログラムに2事業ウェブ上で参加。（9月9日）

#### 施設面

スタジオ（A,B,C）の音響、照明、舞台機構それぞれのメーカーによるメンテナンスを年数回実施する他、外注の舞台管理業者に日常保守業務を委託。令和2年度においてはスタジオA照明卓更新実施。令和3年度にはスタジオA舞台機構の部分改修予定。スタジオ以外の設備についても専門業者による定期メンテナンス実施。

施設計画策定の有無：有（施設設置者である山口市により令和2年3月策定）